

全体計画

1 基本方針

本校の教育目標の実現を図るために、下記の内容に基づいて計画的に研究・研修を推進し、その成果を日常の学級経営や学習指導に活かすように努めるとともに、教師一人一人の資質の向上に努める。



学習指導要領、岩手県学校教育指導指針、学校経営の基本方針及び本年度の重点

記

2 目 標

(1) 主題研究

算数科の授業において、児童が「わかるを実感」できるような授業改善に取り組み、自ら考え、表現する児童の育成を目指す。

(2) 現職研修

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間において、授業の充実を図るための指導法を中心に研修を推進し、教師一人一人の指導力の向上を図る。

3 本年度の重点

(1) 主題研究

- 研究テーマ「自ら考え、わかる児童の育成」を目指し、学びの過程を再確認し共通理解のもと授業実践する。
- 「学びの確かめ」を位置づけた学習活動の工夫の在り方について考え、学力の向上を図る。

(2) 現職研修

- 授業の充実のために指導法を中心とした研修会を持ち、指導力の向上を図る。
- 通常学級における特別支援の児童理解について研修する場をもつ。

主題研究推進計画

1 研究主題

自ら考え、わかる児童の育成
—算数科における「学びの確かめ」を位置づけた学習活動の工夫を通して—

2 主題設定の理由

(1) 今日的教育課題から

令和2年度から新しい学習指導要領が実施となった。「改訂の基本方針」では、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を次の三つの柱に整理している。

ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成）」
ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

また、「小学校学習指導要領総則編」において、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。」と示されている。算数科においても、「主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。」と示され、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図ることが求められている。

このようなことから、知識・技能の定着を大切にしながらも知識偏重に片寄ることなく、自ら考え課題を解決しようとし、学んだことを活用する力を身に付けさせていくことは大切であると考えた。

(2) 本校の教育目標から

本校の学校教育目標の総合目標は、「心身ともに健康で 人間性豊かな子どもの育成」である。その具体目標として、

- 自ら学び 考える子（知）
- 思いやりがあり がんばる子（徳）
- 元気で たくましい子（体）

を掲げている。

これを受け、研究主題に沿った児童像を次のように考えた。

- 自分の考えを表現する子
- 考えを伝え合い、学び合う子
- 「わかる」「できる」喜びを味わい、学びを実感できる子

算数科の学習において、このような児童の育成を目指すために、まず、既習の知識・技能を生かし、自分なりの考えをもち、それを交流し合うことを通して、わかる喜びを味わい、学んだことを確かめる（適用する、活用する）授業を積み重ねていくことが大切であると考えた。そのことが、本校のめざす児童像に迫るものであると考える。

(3) 本校の児童の実態から

本校の児童は、明るく元気で、与えられた課題にまじめに取り組み、頑張ろうという意欲をもっている児童が多い。また、友だちの考えを最後まで聞き、それを受け入れる柔軟性がある。

しかし、掘り下げて思考を進めることや、自分の考えを分かりやすく説明するための論理的思考が苦手である。そこで、本校では、授業の前半で学びのポイントを児童の言葉で見い出して共有し、授業に主体的に参加する楽しさを味わわせたい。そうすることで、自ら見つけた視点で、適用問題を解くことができ「分かる」を実感できるト考える。

また、まとめの文章を考えると、学びのポイントのことばを一般化することで、児童が見つけ言葉を算数用語として押さえることができる。このことを繰り返していくうちに、論理的思考が育っていくと考える。さらに、活用問題にも意欲的に取り組もうとする児童を育てていくことを大切にし、「自ら考え、わかる児童の育成」のために、研究を重ね、豊かな人間の育成の一助としていくことを目指したいと考える。

3 研究の全体構想

(1) 研究主題に対する基本的な考え方

ア 「自ら考え、わかる」とは

「自ら考え」とは、課題に対して自分なりの気づきをもち、それを解決まで導こうとする児童の進んで学ぼうとする姿、「わかる」とは、問題を解いて答えを出せるだけでなく、意味や根拠まで納得した上で、学習したことを適用することととらえた。

イ 「学びの確かめ」を位置づけた学習活動とは

算数科学習における問題解決過程を「学びタイム」と「学びの確かめタイム」の2つの活動としてとらえ、学習展開を構成する。授業前半の「学びタイム」では、本時の学習内容の見方や考え方、方法（「学びのポイント」）を見出す。授業後半の「学びの確かめタイム」では、それを適用しながら問題を解決し、適用問題（ステップ問題）を解くことで確かになった「学びのポイント」からまとめをする。その後、本時の学びをより確かにするような活用問題（ジャンプ問題）を解決する。このような「学びの確かめ」を位置づけた学習活動は、学びを多面的に見る力・統合する力をつけることにつながる学習活動と考えた。

(2) 研究の目標

「学びの確かめ」を位置づけた学習活動の工夫を通して、児童が理解できたことを実感できるような算数科学習指導の在り方を明らかにする。

(3) 研究の仮説

算数科の学習において、次のような手立てで授業改善をすることにより、自ら考え、わかる児童が育つであろう。

手立て1 指導過程の工夫

手立て2 「学びの確かめタイム」の充実を図るための「学びタイム」の工夫

手立て3 課題解決に向けて自分から取り組む意欲を高める場面の設定

(4) 研究の内容

ア 手立て1 指導過程の工夫に関する内容

思考型もしくは習熟型に重きを置いた場合の指導過程のあり方

イ 手立て2

「学びの確かめタイム」の充実を図るための「学びタイム」の工夫に関する内容

①学びの確かめタイムの時間確保のための手立て

②効率的な自力解決・学びの交流のさせ方

（ペア・グループ学習、ICT活用等）

ウ 課題解決に向けて自分から取り組む意欲を高める場面の設定

①問題提示の仕方

②見通しの持たせ方

(5) 研究の方法

ア 仮説に基づく授業実践

イ 授業実践を通しての指導法の改善と仮説の検証

ウ 先行実践や文献等を参考にした理論学習と共通理解

(6) 研究の計画

ア 1年次（令和元年度）

・研究仮説と検証方法の設定

・授業実践を通じた研究の方向性の確認

イ 2年次（令和2年度）

・授業実践を通じた研究の内容の具体化と確認

ウ 3年次（令和3年度）

・学校公開

エ 4年次（令和4年度）

・課題点の改善

オ 5年次（令和5年度）

・課題点の改善

カ 6年次（令和6年度）

- ・課題点の改善

5 その他

(1) 互見週間の取り組み

ア 取り組み方

期間中に授業日を決め、授業を公開する。教科は算数とは限定しない。いろいろな教科の指導法を交流する機会とする。可能な限り授業を参観しに行く。
感想用紙にて意見交流を行う。

イ 期間

- ① 6月
- ② 11月

(2) 複式指導について

国語や算数において複式の授業を行い、複式指導の在り方を交流する。

(3) 学力向上のための手立て

ア 教研式標準学力検査C R Tの結果と活用について

- ①前年度に実施した結果を基に、落ち込みが大きかった単元などについて、指導の際に丁寧に対処するようにし、定着を図る。
- ②日常の授業の中で個に配慮した指導・支援を行う。

イ 朝学習の取り組み

月曜日：朝清掃

火曜日：朝会のない時、読書

水曜日：計算

木曜日：朝清掃

金曜日：漢字

※6月、11月、2月の年3回、漢字・計算テストを行う。

ウ 家庭学習の取り組みと内容の充実

- ①学年の発達段階に応じた学習の仕方を具体的に指導する。
- ②授業とのかかわりを意識した家庭学習をさせていく。（予習・復習）
- ③個々の能力に応じた家庭学習の内容にも配慮していく。
- ④テストやプリントで間違えた問題の内容に取り組む
- ⑤家庭音読と読書は全校の取り組みとして、音読カードに入れる。
- ⑥家庭学習取組強化期間を年3回設定し、期末テストに向けての取り組みをする。
- ⑦参観日に、家庭学習ノートの展示を行い、保護者への啓発を図る。

(4) 年間指導計画の一覧表の改善

- ア 年間指導計画「単元一覧表」に基づいて計画的に授業を進め、その実践を通して見直しを行い、改善を図る。

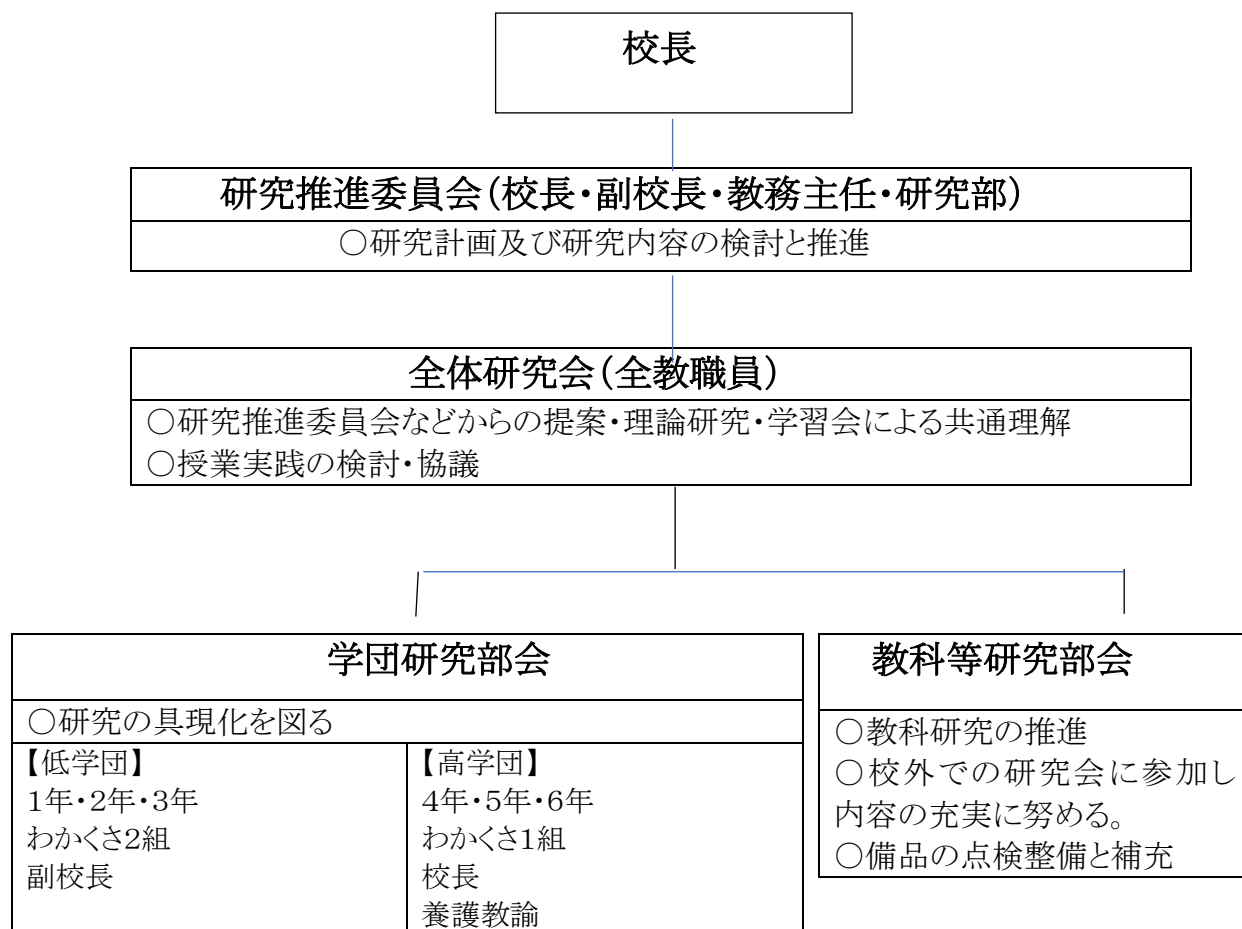
(5) 校外研修への参加について

- ア 全員管内1回、管外1回は、校外研修に参加できるようにする。（状況に応じる）
- イ 校外研修での内容については、校内研等で伝達講習をし、その内容を全員で共通理解できるようにする。

(6) 学習環境の整備・充実について

- ア 単元の学習の様子や学習の流れが分かる掲示を行う学習コーナーを教室に設置し、児童が見通しや意欲をもって学習が進められるようにする。

(6) 研究組織
ア 全体組織図



※教科等担当者

国語	田村	社会	柳池	算数	小澤	理科	花輪	生活	菊池
音楽	柳池	図工	小澤	体育	田村	家庭	高橋	外国語 英語	花輪
道德	菊池	特活	鷲山	総合	高橋				

4 研修日程

回数	月	日	曜日	研究会	主題研究
1	4	18	木	全体研	今年度の研究内容についての共通理解
2	5	23	木	学団研	学団毎の事前研究（6年）
3	6	20	木	適宜	互見週間（運動会の後～6月30日）
4	6	27	金	全体研	授業研究会（6年）
5	7	4	木	学団研	学団毎の事前研究（2・3年）
	7	25	木	全体研	通常学級における支援の必要な児童への対応について研修 ※指導主事による講義
6	9	5	木	全体研	授業研究会（2・3年）※複式について指導主事派遣あり
7	9	26	水	学団研	学団毎の事前研究（5年）
8	10	24	金	全体研	授業研究会（5年）※中堅研も兼ね指導主事の派遣あり
9	11	7	木	適宜	互見週間（11月10日～11月30日）
10	11	28	木	全体研	授業訪問
11	12	11	木	適宜	研究のまとめアンケート・伝講会
12	1	23	木	全体研	今年度の研究反省
13	2	20	木	全体研	次年度の研究構想

※各種研究会等の伝講は、紙面（A4 1枚程度）にまとめるか、資料を準備して研究会の際に紹介をする。

※第1回、第13回全体研の前に研究推進委員会を開催する。

※事前研のない学団は、教材研究や互見週間の準備などを学団そろって行う。

※指導主事派遣のある授業研究会の日時は決まり次第連絡する。